

01-02-03 —泣いたら母乳—

『泣いたら母乳を・・・』という話を良く聞きますが、この“泣いたら母乳”という言葉は誰がいつ頃から言い始めたのか調べても判りませんでした(日本小児科学会・日本小児科医会・日本母乳の会・日本助産師会などのホームページにも『泣いたら母乳を・・・』の記載なし)。調べが足りないのかなぁ～？ 以前に、ある母乳育児推進の集まりでこの事について質問したのですが“無視”されました。しかし、インターネット上では、『泣いたら母乳を与えているのですが……？』という悩み相談は沢山見かけます。その際の助言は相対的には、やんわりと『“泣いたら”にこだわらず、赤ちゃんが“欲しがる時”に与えてください。』となっているようです。

一方、世界的には、WHO とユニセフが 1989 年に世界中産科施設の全てに出した共同声明『母乳育児を成功させるための 10 か条』(の第 8 条)には、“赤ちゃんが欲しがる時に、欲しがるままの授乳をすすめること”となっていました。ところが、2018 年の改訂では “赤ちゃんの欲しがるサインをお母さんがわかり、それに対応できるように授乳の支援をする” と変わりました。どちらにも『泣いたら母乳を与えてください』とは書いてありません。最初の共同声明(=1989 年)から改定まで約 30 年(=最初の声明の結果が出てきた時期)での改定。”院長ひとり言“的には、世界中のお母さん方世代が、既に行間の読めない(=言葉の裏を読み取れない)世代になってしまったのかな？ そこで、真意を正確に伝えるために具体的に解説をした(=欲しがるサインをお母さんがわかり)文を”加えざるを得なかった”とも取れるのですが、とにかく、現在も母乳授乳で悩んでいるお母さま方が、一人でも多く“泣いたら母乳”の呪縛より解き放されることを願っています。

「赤ちゃんの泣き声は“ことば”」でまた説明します。

